

老老介護が増え、要介護認定者は女性に多い

要介護認定者は全国で 496 万人と、65 歳以上高齢者人口の約 1.7% になりますが、男性が 151 万人に対し女性が 345 万人と約 2.3 倍になり、女性が圧倒的に多いのが特徴です。特に 80 歳以上の総数では男性 82 万人に対し女性 253 万人と約 3 倍になり、80 歳以上女性人口の 48% と約半数になります。女性が多くなる原因としては、60 歳の平均余命が男性 84 歳に対し女性 89 歳と女性の寿命が長いこと (No19)、介護期間の平均が男性 3 年に対し女性 6.5 年と女性の介護を受ける期間が長いこと、85～89 歳で要介護認定者になる割合が男性で 37% に対し女性で 54% と女性の方が概ね 15% 多いことなどがあります (No.3)。

在宅の要介護者の世話をする同居介護者をみると、80 歳以上になっての老老介護は男性で約 40%、女性で約 30% となり、改めて老老介護の問題の大きさに気付かされます。これは夫婦だけで暮らす高齢者世帯が増え、配偶者間介護が一般化した結果です。最晩年には介護は男女を問わず誰にもふりかかる問題ですので、早くから介護情報に関心を持ち知識を深め、備えておくことが必要になりました。

